

エコアクション21



環境経営レポート

【2024年度版】



中山産業株式会社

対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

2025年6月16日発行



目次

	頁
1. 組織の概要	3 ～ 5
2. 環境方針	6
3. 環境への負荷	7 ～ 8
4. 環境目標と実績	9 ～ 12
5. 主要な環境活動計画内容	13
6. 環境活動の取組結果と評価	14～16
7. 環境関連法規等の遵守及び訴訟の有無	17～18
8. 次年度の活動目標	19～22
9. 次年度の主要な環境活動計画内容	23
10. SDG s 行動宣言	24
10. 代表者による全体評価と見直しの結果	25





1. 組織の概要

(1) 名称及び代表者名

事業所名：中山産業株式会社

代表者：代表取締役 中山 倫太郎

(2) 所在地

本社・門司事業所：福岡県北九州市門司区松原1丁目9番6号

真岡事業所・製函課：栃木県真岡市鬼怒ヶ丘1丁目2番2号

加工品課：栃木県真岡市鬼怒ヶ丘18番地5号

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者

【門司事業所】

推進責任者：生田 勇人

【真岡事業所】

環境管理責任者：古川 隆夫

推進責任者：加工品製造部 広瀬 寿明

推進委員：製函課 菊地 英二

：加工品課 町井 大祐

【事務局】

推進事務局：上野 健（門司事業所環境管理責任者兼務）

連絡先 TEL：0285-82-5577 FAX：0285-83-2492

(4) 事業の規模 (2024年4月～2025年3月)

活動規模	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課
従業員*1	8名	23名	29名
延べ床面積	1,191㎡	3843㎡	1,741㎡
2024年度売上高	55百万円	321百万円	228百万円

*1：3月末現在 *2：2019年度より総務部門を加工品課に含める

(5) 認証登録範囲

関連事業所：本社・門司事業所

：真岡事業所 製函課

：真岡事業所 加工品課・総務課

対象外：神鋼事業所 ※ISO14001活動構成員のため対象外

(6) 事業の内容

- 梱包輸送用木製パレット、木枠の製作・販売
- 輸出梱包輸送用（蒸熱乾燥処理）木製パレット、木箱の製作・販売
- 梱包輸送用スチールパレットの製作・販売
- 精密板金加工・溶接加工

(7) 主な製品紹介



木製パレット



木製パレット



特殊長尺木箱



建造用梁



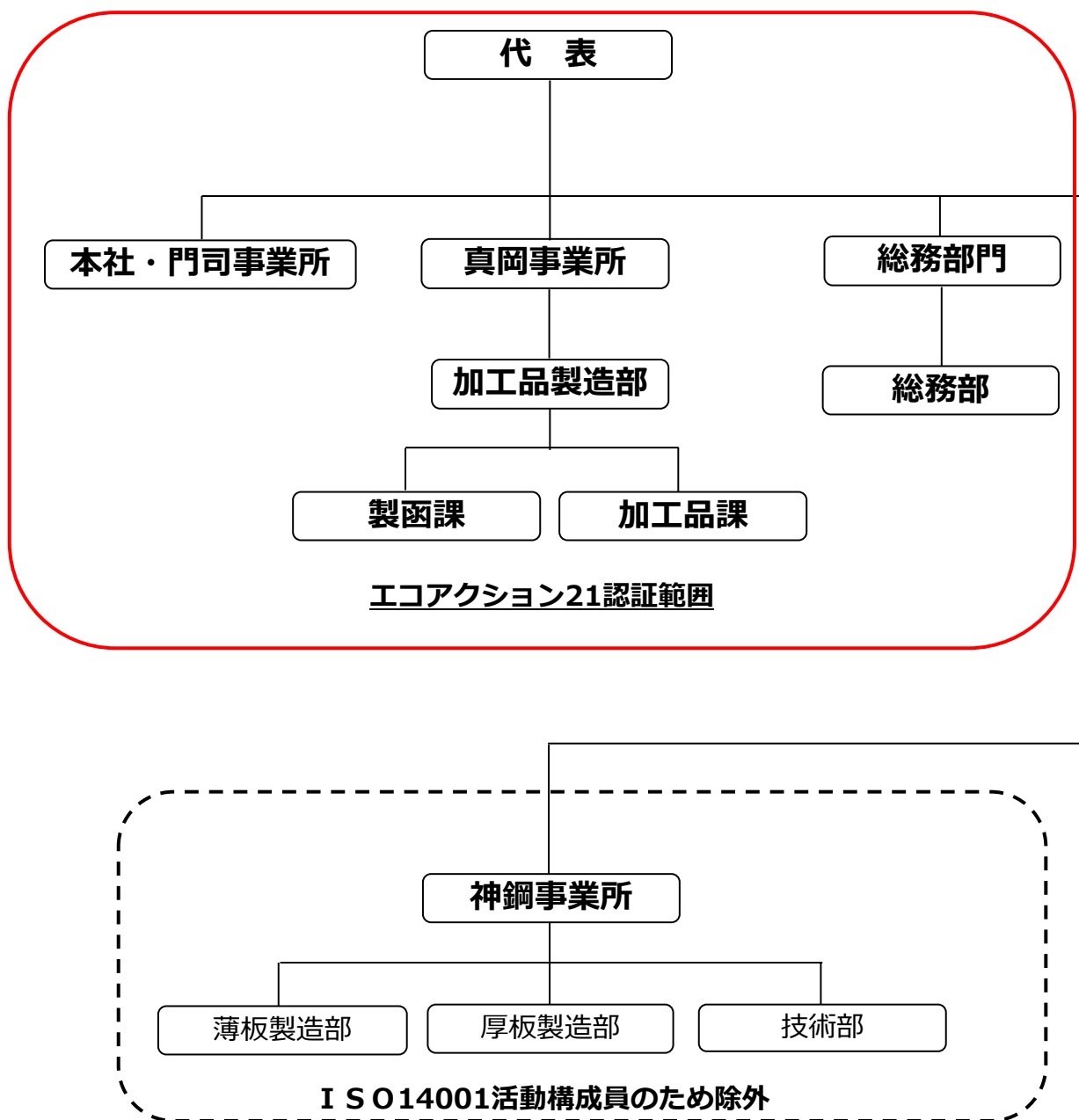
鉄製BOX



鉄製パレット



(8) 組織図



2. 環境方針

環境方針

私達は、地球規模での環境問題が深刻化している現状をしっかりと認識し、木材パレット及び鉄製パレットの「製造・開発・輸送」活動を通じて、事業活動における環境負荷の低減や、社会に貢献する製品を目指します。このために、以下の活動を全社一丸となり、自主的・積極的に推進する。

環境関連法規則及び
条例を遵守します。

1

製造工程から発生する
木材・鉄の廃棄物の
削減に取り組みます。

2

トラック・フォークリフト等で
使用する化石燃料の
削減に取り組みます。

3

電力消費量の削減を通じて
二酸化炭素排出量の
削減に取り組みます。

4

節水を徹底して行います。

5

環境経営の継続的な
改善として
5S活動を推進します。

6

環境目標を設定し
継続的な改善を推進すると共に
定期的な見直しを行います。

7

教育及び訓練を実施し、
環境に対する意識と資質の
向上を図ります。

8

この方針はサイト内で働く
全ての人に周知すると共に
一般にも公開します。

9



エコアクション21
認証番号0008547

2024年4月1日 中山産業株式会社

代表取締役 中山 倫太郎



3. 環境への負荷

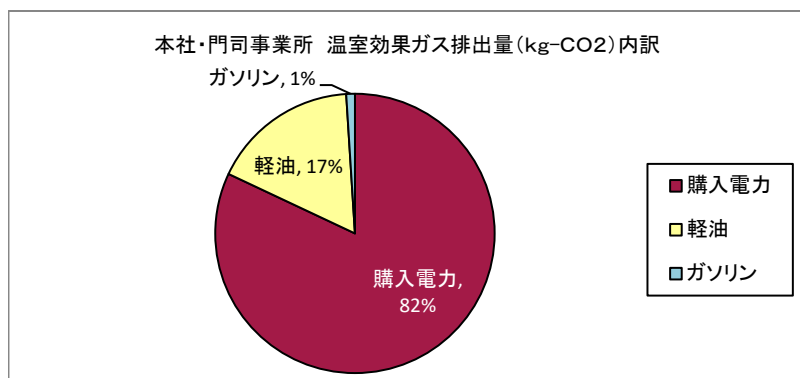
(2022年を基準年とし3年間活動)

(1) 本社・門司事業所

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2*	19,736	16,875	16,623	
② 廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	15	23	27	
	産業廃棄物	kg	32,250	29,190	30,730	
③ 総排水量	上水	m ³	140	119	105	

*平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.462を使用



温室効果ガス排出量内訳

2024年度	
項目	パーセンテージ
購入電力	82%
軽油	17%
ガソリン	1%

※灯油・ガスは除外

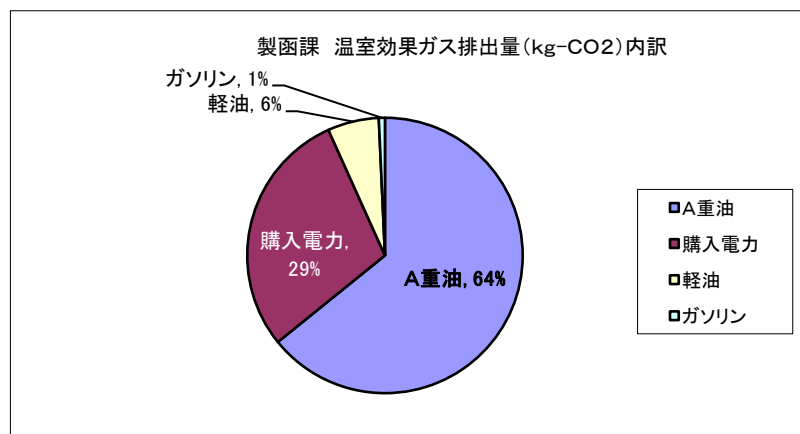
(2) 真岡事業所 製函課

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2*	177,166	173,400	178,229	
② 廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	0	0	0	
	*1 産業廃棄物	kg	3,203	2,880	2,513	
③ 総排水量	地下水+上水	m ³	512	524	579	

* 平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.462を使用

*1 木材リサイクル資源化廃棄物は除く



温室効果ガス排出量内訳

2024年度	
項目	パーセンテージ
A重油	64%
購入電力	29%
軽油	6%
ガソリン	1%

※ガスは除外



(3) 真岡事業所 加工品課・総務課

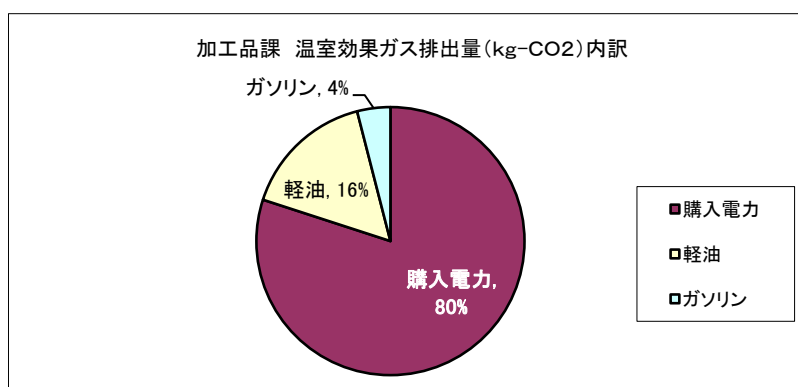
基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
① 温室効果ガス排出量*1	二酸化炭素	kg-CO2*	51,036	51,598	51,543	
② 廃棄物処理量*1	一般廃棄物	kg	0	0	0	
	*2 産業廃棄物	kg	2,320	1,540	1,730	
③ 総排水量	地下水	m ³	573	457	226	

*平成30年度実績（R2.1.7環境省・経済産業省公表）調整後排出係数0.462を使用

*1：2019年度より総務課のガソリン温室効果ガス排出量、産業廃棄物を加工品課に含める

*2 有価物処理廃棄物は除く



温室効果ガス排出量内訳

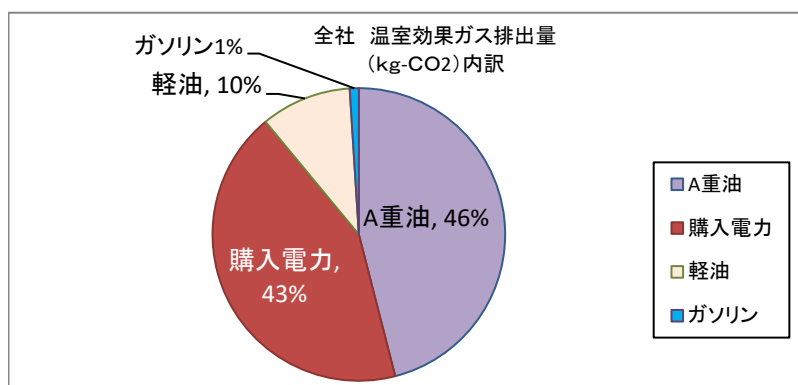
2024年度	
項目	パーセンテージ
購入電力	80%
軽油	16%
ガソリン	4%

※灯油・ガスは除外

(4) 全体

基準年

環境への負荷		単位	2022年	2023年	2024年	2025年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO2	247,938	241,873	246,395	
② 廃棄物処理量	一般廃棄物	kg	15	23	27	
	産業廃棄物	kg	37,773	33,610	34,973	
③ 総排水量	地下水+上水	m ³	1,225	1,100	910	



温室効果ガス排出量内訳

2024年度	
項目	パーセンテージ
A重油	46%
購入電力	43%
軽油	10%
ガソリン	1%

※灯油・ガスは除外

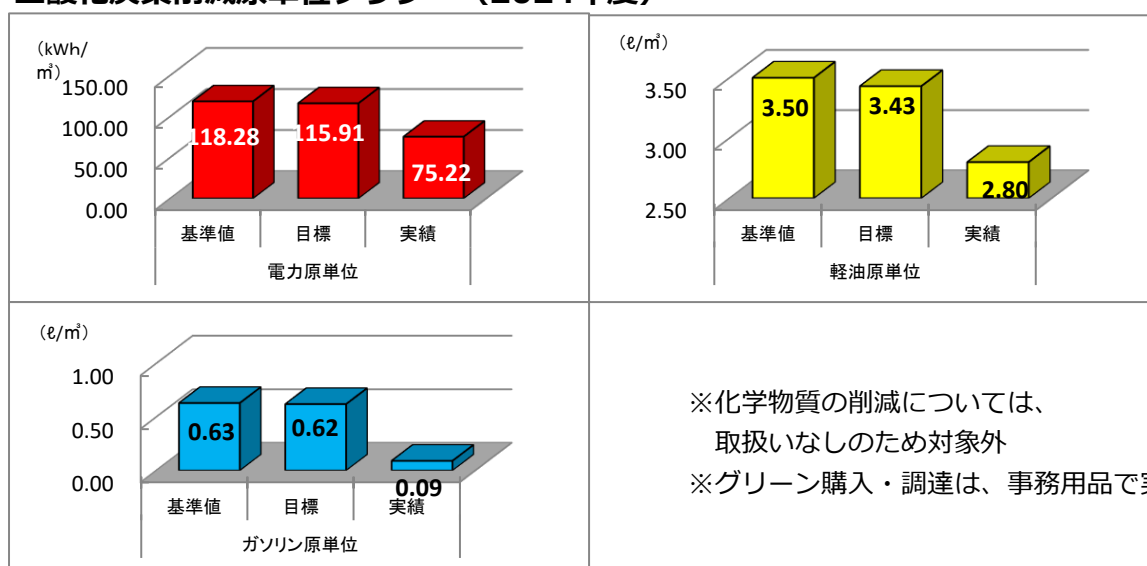


4-1. 環境目標と実績 本社・門司事業所

項目	2022年度		2024年度		
	基準年	目標	実績	評価	
二酸化炭素削減項目	(2022年4月～2023年3月)	(2024年4月～2025年3月)	(2024年4月～2025年3月)	(原単位)	
電気使用量 (kWh)	35,840	基準値-2% 35,123	29,635	○	
二酸化炭素 (kg-CO ₂) 排出係数0.462	16,558	16,227	13,691		
原単位 (kWh/m ³) *1	118.28	115.91	75.22		
軽油使用量 (ℓ)	1,060	基準値-2% 1,039	1,103	○	
二酸化炭素 (kg-CO ₂) 排出係数2.58	2,735	2,680	2,846		
原単位 (ℓ/m ³)	3.50	3.43	2.80		
ガソリン使用量 (ℓ)	191	基準値-2% 187	37	○	
二酸化炭素 (kg-CO ₂) 排出係数2.32	443	434	86		
原単位 (ℓ/m ³)	0.63	0.62	0.09		
産業廃棄物削減項目					
一般廃棄物 (kg)	15	基準値-2% 15	27	×	
原単位 (kg/m ³)	0.05	0.05	0.07		
木材 (kg)	32,250	基準値-2% 31,605	30,730	○	
原単位 (kg/m ³)	106.44	104.31	77.99		
排水量の削減					
節水 (m ³)	140	基準値-2% 137	105	○	
原単位 (m ³ /m ³)	0.46	0.45	0.27		
化学物質の削減	対象なし				-

*1 分母「m³」：木箱生産量

二酸化炭素削減原単位グラフ (2024年度)

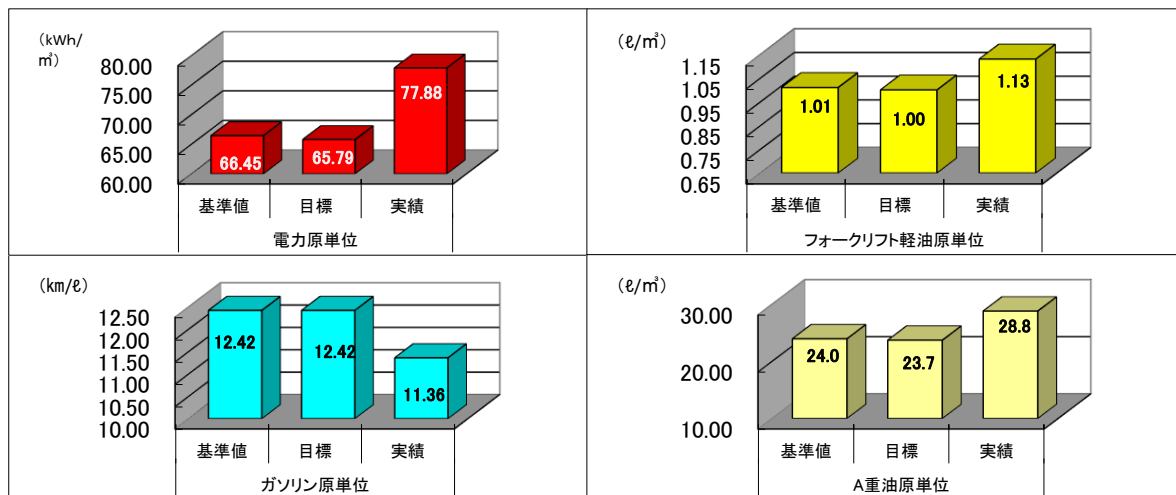


4-2. 環境目標と実績 製函課

項目	2022年度		2024年度			
	基準年		目標		実績	評 価
二酸化炭素削減項目	(2022年4月～2023年3月)		(2024年4月～2025年3月)		(2024年4月～2025年3月)	(原単位)
電気使用量 (kWh)	112,495		基準値-1%	111,370	112,151	×
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数0.462	51,973	51,453		51,814	
原単位 (kWh/㎡) *1	66.45		65.79		77.88	
トラック軽油使用量 (ℓ)	1,165		基準値-1%	1,153	928	○
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.58	3,006	2,976		2,394	
原単位 (ℓ/㎡)	0.30		0.30		0.28	
フォーク軽油使用量 (ℓ)	3,947		基準値-1%	3,908	3,719	×
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.58	10,183	10,081		9,595	
原単位 (ℓ/㎡) *1	1.01		1.00		1.13	
ガソリン使用量 (ℓ)	445		基準値0%	445	552	×
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.32	1,032	1,032		1,281	
原単位 (km/ℓ)	12.42		12.42		11.36	
A重油使用量 (ℓ)	40,949		基準値-1%	40,540	41,884	×
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.71	110,972	109,862		113,506	
原単位 (ℓ/㎡) *2	23.95		23.71		28.81	
産業廃棄物削減項目						
一般廃棄物 (t)	0		0	0	0	-
産業廃棄物 (kg)	3,203		基準値-2%	3,139	2,513	○
原単位 (kg/㎡) *1	1.89		1.85		1.72	
木材 (kg)	95,730		基準値-1%	94,773	110,620	×
原単位 (kg/㎡) *1	56.54		55.97		76.82	
排水量の削減						
地下水 (㎡)	336		基準値-1%	332	407	×
原単位 (㎡/㎡) *2	0.20		0.20		0.28	
上水 (㎡)	177		基準値-1%	175	173	○
原単位 (㎡/人)	0.78		0.77		0.63	
化学物質の削減	【行動目標】 インク使用時、適正使用量の管理実施					○

*1 分母「㎡」：木製パレット生産量 *2 分母「㎡」：木材乾燥量

二酸化炭素削減原単位グラフ (2024年度)

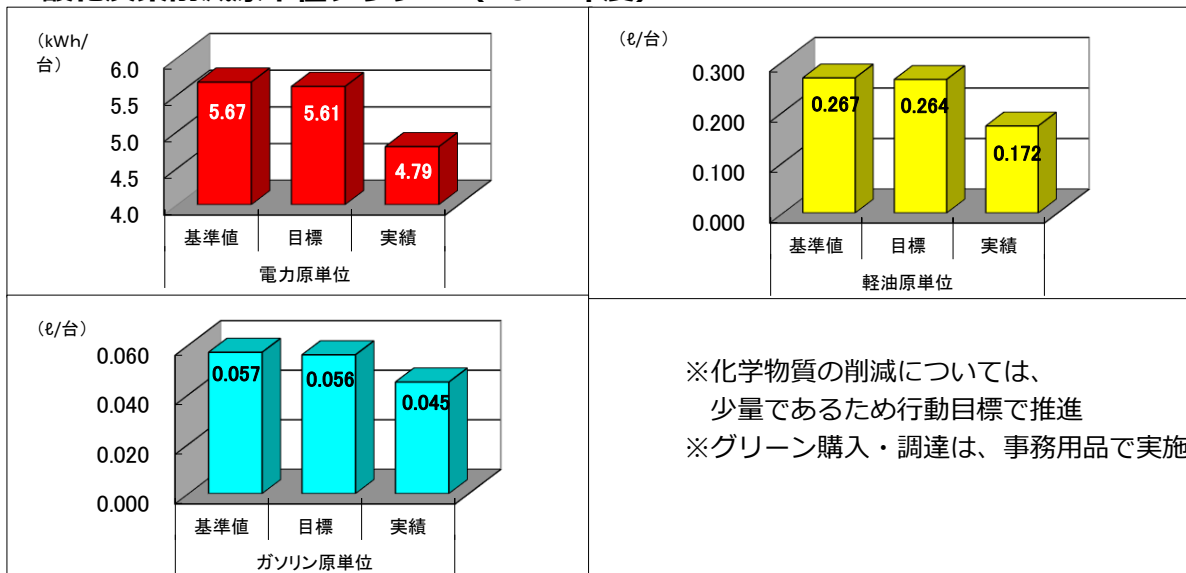


4-3. 環境目標と実績 加工品課

項目	2022年度		2024年度			
	基準年		目標		実績	評価
二酸化炭素削減項目	(2022年4月～2023年3月)		(2024年4月～2025年3月)		(2024年4月～2025年3月)	(原単位)
電気使用量 (kWh)		83,240	基準値-1%	82,408	88,941	○
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数0.462	38,457		38,072	41,091	
原単位 (kWh/台)		5.67		5.61	4.79	
軽油使用量 (ℓ)		3,915	基準値-1%	3,876	3,626	○
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.58	10,101		10,000	9,355	
原単位 (ℓ/台)		0.267		0.264	0.172	
ガソリン使用量 (ℓ)		830	基準値-1%	822	823	○
二酸化炭素 (kg-CO ₂)	排出係数2.32	1,926		1,906	1,909	
原単位 (ℓ/台)		0.057		0.056	0.044	
産業廃棄物削減項目						
一般廃棄物 (kg)		0		0	0	-
産業廃棄物 (kg)		1,720	基準値-2%	1,686	1,230	○
原単位 (kg/台)		0.12		0.12	0.07	
①鉄屑 (kg)		1,712	基準値-2%	1,678	1,489	○
原単位 (kg/千円)		0.071		0.070	0.070	
②ステンレス屑 (kg)		5,837	基準値-2%	5,720	3,195	×
原単位 (kg/千円)		0.067		0.066	0.096	
③D鉄屑 (kg)		17,090	基準値-2%	16,748	14,245	○
原単位 (kg/千円)		0.169		0.166	0.163	
排水量の削減*1	*1：2019年度より総務課に加工品課を含める。					
化学物質の削減*2	【行動目標】塗料使用時、適正使用量の管理実施					
化学物質使用量 (ℓ)		1,148	基準値-2%	1,125	519	○
原単位 (ℓ/千円×百万)		1.127		1.104	0.249	

*2：2023年度より化学物質の削減を活動計画書に追加した。

二酸化炭素削減原単位グラフ (2024年度)



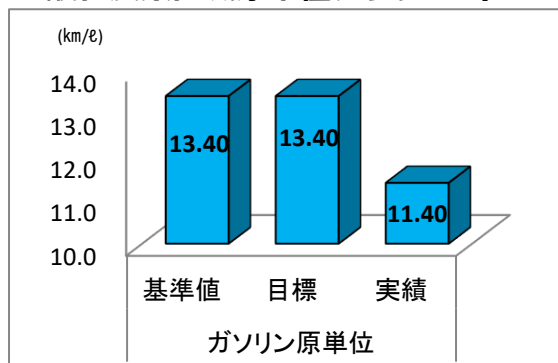


4-4. 環境目標と実績 総務課

項目	2022年度	2024年度			
	基準年	目標	実績	評 価	
二酸化炭素削減項目	(2022年4月～2023年3月)	(2024年4月～2025年3月)	(2024年4月～2025年3月)	(原単位)	
電気使用量 (kWh) *1	*1：総務課の電気使用量は加工品課に含める				
ガソリン使用量 (ℓ)	218	基準値0%	218	287	×
二酸化炭素 (kg-C O2)	排出係数2.32 506	506	666		
原単位 (km/ℓ)	13.4	13.4	11.4		
産業廃棄物削減項目					
一般廃棄物 (kg)	0	0	0	-	
産業廃棄物 (kg)	600	基準値-2%	588	500	○
排水量の削減					
節水 (㎡) *2	573	基準値-2%	562	226	○
原単位 (㎡/人)	2.09	2.05	0.64		
化学物質の削減	対象なし			-	

*2：総務課に加工品課の排水量を含める。

二酸化炭素削減原単位グラフ (2024年度)



※グリーン購入・調達は、事務用品で実施



5. 主要な環境活動計画内容

項 目	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課・総務課
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減 ・空調温度の適正化 ・不要設備の電源OFF ・小まめな照明OFF	電力の削減 ・天日干しによる乾燥炉使用時間の短縮 ・空調温度の適正化 ・設備、冷暖房不使用時の電源OFF ・エリア別不要照明の電源OFF	電力の削減 ・空調温度の最適化 ・不使用機械の電源OFF ・小まめな工場天井灯のOFF ・夜間、休日の主電源OFF
	自動車燃料の削減 ・効率的なルートで配送 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・タイヤ空気圧定期チェック	自動車燃料の削減 ・使用フォークの適切な選択 ・アイドリングストップ活動 ・急加速・急停車の防止 ・トラックの適正なエアコン使用	自動車燃料の削減 ・タイヤ空気圧チェック ・エコドライブの勧め10か条 ・車種別燃費管理 ・短距離では歩行する
		乾燥炉燃料の削減 ・木材入炉前の天日干し徹底（1ヶ月以上） ・効果的な使用方法（風量・装入量・時間）	
廃棄物排出量の削減	廃プラ廃棄物の削減 ・素材別ボックスの設置 ・個人ゴミの持ち帰り ・素材別排出量の管理	廃プラ廃棄物の削減 ・段ボール、雑誌の有価リサイクルの実施 ・支給品端材等の分別・引取りの徹底 ・定期的な排出、内訳の確認 ・粉屑の雨漏れ防止	廃プラ廃棄物の削減 ・シュレッダーゴミの削減 ・コピー用紙裏紙使用 ・仕入先返却 ・ウエス再利用
	木材屑の削減 ・端材の有効活用、回転を速くする習慣化 ・作業ミスによる廃棄量の削減 ・設備トラブルによる廃棄量の削減	木材屑の削減 ・端材使用の当木在庫製作 ・130角材の取り合わせ製作 ・ねじれ、反り材の挽割転用	金属屑の削減 ・明細別屑化管理 ・材料毎の分別BOX ・端材の有効利用
排水量の削減	節水 ・節水の徹底 ・使用しない時の蛇口閉の徹底	節水 ・地下水：乾燥炉の蒸気使用 ブロー量の管理 ・上水：節水の励行 洗濯機回数チェックによる維持管理	節水 ・洗濯機利用の低減 ・不要水の削減 ・内部コミュニケーションによる意識向上
化学物質の削減	【行動目標】 ・鋸用オイルの適正使用の実施	【行動目標】 ・インクの在庫管理実施（少量の為）	【行動目標】 ・最新版SDS入手 ・化学物質の把握
グリーン購入その他	・5S活動の推進 ・事務用品エコマーク商品の優先購入	・5S活動の推進 ・森林認証制度認証FSCマーク付与の材料を使用	・5S活動の推進 ・QC活動による歩留UP ・事務用品エコマーク商品の優先購入

6. 環境活動の取組結果と評価

1) 本社・門司事業所

(1) 二酸化炭素排出量の削減

【電力の削減】

生産量が基準年より増加したが、使用量及び原単位共にの目標達成した。
切断ミスによるロスを軽減する意識と活動により昨年より効果が出ている。

【車両燃料の削減】

増産したが燃料の使用量は基準年と同水準であり効率的な配送の効果が出たと考える。
イレギュラーな納品対応以外は可能な限り効率的な配送を心掛けた活動を継続していく。

(2) 廃棄物排出量の削減

【廃プラスチック削減】

排出量及び原単位ともに未達となった。
分類別の管理を始めたので、重点課題を精査し優先を点けて活動推進していく。
また、個人ゴミの持ち帰り等は継続し臍面の意識向上を進めていく。

【木材屑削減】

排出量は基準年より原単位▲27%削減できた。
今年度も生産量が増加し屑化は減少したことは良好な状態である。
門司事業所全員の木屑削減意識が更に高まったと感じる。

(3) 5S活動の推進



2) 真岡事業所 製函課

(1) 二酸化炭素排出量の削減

【電力使用量削減】

基準年に対し社内生産量が15%減となったが、使用量は横ばいで原単位目標は未達。
木材購入先を変更した事で、捻じれの発生する過乾燥品が減少した半面、乾燥炉の使用時間が増加しているので指標の見直しも検討していく。又、不要照明や不使用設備の電源OFFも継続して活動し原単位を改善していく。

【自動車燃料削減】

トラック燃料は納品積み合わせでの効率化を継続し目標を達成。フォークリフト燃料に関しては年間通して安定しているが年々原単位が低下しており目標も未達となった。

社有車のガソリンについても燃費の維持が難しく未達となっている。

【A重油使用量削減】

電力同様、木材の購入先変更により乾燥時間が増加、A重油の原単位目標も未達。

ボイラーで使用する地下水に関しても同様に目標未達。

(2) 廃棄物排出量の削減

【廃プラスチック削減】

段ボールや紙類の分別、有価リサイクルを継続実施。排出量を年間通じて削減できていて原単位目標も達成。今後も分別を徹底し継続していく。

【木材屑削減】

転用できる当木の減少、停滞木材の挽割り増加等により歩留りが低下し目標未達。

(3) 5S活動の推進 エリア活動：1件/年、その他改善事項：13件/年

活動エリア ゴミステーション

活動前



活動後



区画と品目表示



金属混合屑は分別して排出



3) 真岡事業所 加工品課

(1) 二酸化炭素排出量の削減

【電力の削減】

電力の削減では売上原単位から台数原単位に指標を見直し、
タレパン導入により内作化を図り、基準年比で26%増の内作化ができた。
実測値では未達になったが原単位は達成できている。

【燃料の削減】

燃料削減ではガソリン・軽油ともに原単位達成できた。売上から台数へと指標の見直しを実施。
タレパン導入により外注引き取りも減り、実測値も達成できている。

(2) 廃棄物排出量の削減

【廃プラスチックの削減】

廃プラスチック削減では売上から台数へと指標の見直しを実施し原単位で達成できている。
分別もしっかりと実施し良い状態を継続できている。

【金属屑の削減】

金属屑の削減ではステンレス屑が原単位未達になった。
タレパン導入による歩留まり悪化が原因と思われる。
今後は歩留まりUPを目指し端材管理を徹底していく。

(3) 5S活動の推進

活動エリア 北工場溶接作業場

活動前



予備品置き場

活動後

溶接作業場



新設備導入にあたり予備品置き場を溶接作業場に変更。
区画・3定を実施し溶接作業効率を上げることができた。

7. 環境関連法規等の遵守及び訴訟の有無

(1) 【本社・門司事業所】環境関連法規及び遵守チェック表まとめ

環境関連法	適用内容・規制基準値	遵守評価	
騒音規制法	工業地域（第4種区域） 朝夕 70 d b 以下 6:00～23:00 夜朝 65 d b 以下 23:00～6:00	騒音規制法第3条第1項 騒音規制法第4条第1項 北九州告示第303号 基準値以下のためOK	○
振動規制法	工業地域（第2種区域） 昼間 65 d b 以下 8:00～19:00 夜間 60 d b 以下 19:00～8:00	騒音規制法第3条第1項 騒音規制法第4条第1項 北九州告示第307号 ※該当設備なし	○
廃棄物処理法	産業廃棄物収集運搬・処理業者との契約書及び 許可証写し保管 ・規制対象地域内にある全ての工場・事業場 保管基準 60 c m×60 c m以上表示、 飛散・浸透防止、衛星管理 マニフェスト交付 B2、D、E票の保管（5年間）、B2・D票90日、 E票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 （6月末迄に） 産業廃棄物（木くず）	法律に遵守 マニフェストの保管確認OK	○
消防法	防火対象物とされる施設・建屋の消防設備の点検 「消防用設備等点検結果報告」 機器点検 6ヶ月に1回 総合点検 1年に1回	消防法第17条の3の3 法律に遵守	○
フロン排出抑制法	第一種特定製品 室外機 3台 スポットクーラー 6台	圧縮機の定格出力7.5 k w以下 簡易点検 1回/3ヶ月実施 問題なし	○

(2) 環境関連法規への違反、訴訟の有無

調査対象期間、2024年4月より2025年3月までに於いて、関連法規への違反、訴訟等はありませんでした。また、関連機関から改善に関する指摘等も過去3年間ありません。



(3) 【真岡事業所】環境関連法規及び遵守チェック表まとめ

環境関連法	適用内容・規制基準値	遵守評価	
騒音規制法 製函 加工品	工業専用地域 昼間 75 d b 以下 8:00~18:00 朝夕 70 d b 以下 朝6:00~8:00 夕18:00~22:00 夜間 60 d b 以下 22:00~6:00	規制基準の遵守義務 (施行規則第6条別表第3(4)) 基準値以下のためO K ※測定義務は無し	○
振動規制法 製函 加工品	工業専用地域 昼間 70 d b 以下 8:00~20:00 夜間 65 d b 以下 20:00~8:00 ※加工品 液圧プレス、コンプレッサー	特定工場等の規制基準 (規則別表第3(5)) ※測定義務は無し	○
悪臭防止法 製函 加工品	真岡市 工業専用地域 敷地境界線の臭気指数18 ・規制対象地域内にある全ての工場・事業場	外部コミュニケーションによる 苦情等無し	○
廃棄物処理法 製函 加工品	産廃収集運搬・処理業者との契約書及び 許可証写し保管 保管基準 60 c m×60 c m以上表示、 飛散・浸透防止、衛星管理 マニフェスト交付 B2、D、E票の保管(5年間)、B2・D票90日、 E票180日以内に送付されない場合は 30日以内の知事への報告 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 (6月末迄に) 一般廃棄物(紙くずなど) 産業廃棄物(廃プラ類、木くずなど)	法律に遵守 マニフェストの保管確認O K	○
大気汚染防止法 製函	ばい煙発生施設 木材乾燥機 伝熱面積10㎡以上 No.1 4.6㎡ 三浦工業 火格子面積1㎡以上 No.2 6.9㎡ 長府製作所 燃焼量50 ℓ /H以上 No.3 7.6㎡ 三浦工業	10㎡以下のため問題なし	○
消防法 製函	少量危険物貯蔵取扱所 A重油タンク 危険物第3類第4石油類 重油(指定数量2,000 ℓ)	取扱いの技術上の基準等(第31条の2) 法律に遵守	○
フロン排出抑制法 製函 加工品・総務	第一種特定製品 室外機 2台 室外機 5台、スポットクーラー 3台	圧縮機の定格出力7.5 k w以下 簡易点検 1回/3ヶ月実施 問題なし	○
特定化学物質障害予防規則 (特化則第38条の21第2項~第8項)	溶接ヒュームの測定、その結果に基づく呼吸用保護具の使用 及びフィットテストの実施等 加工品南工場溶接作業時 規制マスクの着用遵守	保護具選定 フィットテスト	○ ○

(4) 環境関連法規への違反、訴訟の有無

調査対象期間、2024年4月より2025年3月までに於いて、関連法規への違反、訴訟等はありませんでした。また、関連機関から改善に関する指摘等も過去3年間ありません。



8-1. 次年度の活動目標

〔本社・門司事業所〕 評価（原単位評価）： ○達成 ×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 (2023年4月～2024年3月)		2024年度 (2024年4月～2025年3月)		2025年度 (2025年4月～2026年3月)	
		目 標	実績評価	目 標	実績評価	目 標	実績評価
二酸化炭素削減項目							
電気使用量 (kWh)	35,840	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	16,594	排出係数0.462		排出係数0.462		排出係数0.463	
原単位 (kWh/㎡)	118.28	117.10		115.91		114.73	
軽油使用量 (ℓ)	1,060	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	2,735	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位 (ℓ/㎡)	3.50	3.47		3.43		3.40	
ガソリン使用量 (ℓ)	191	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	443	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位 (ℓ/㎡)	0.63	0.62		0.62		0.61	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物 (kg)	15	基準値-1%	×	基準値-2%	×	基準値-2%	
原単位 (kg/㎡)	0.050	0.05		0.05		0.05	
木材 (kg)	32,250	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位 (kg/㎡)	106.44	105.38		104.31		103.25	
排水量の削減							
節水 (㎡)	140	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位 (㎡/㎡)	0.46	0.46		0.45		0.45	
化学物質の削減							
行動目標	鋸用オイルの適正使用量の実施						

本社・門司事業所次年度活動目標

【基準値変更】

項目	変更点
基準年	該当なし



8-2. 次年度の活動目標

〔真岡事業所 製函課〕 評価（原単位評価）：○達成 ×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 (2023年4月～2024年3月)		2024年度 (2024年4月～2025年3月)		2025年度 (2025年4月～2026年3月)	
二酸化炭素削減項目	*1	目 標	実績評価	目 標	実績評価	目 標	実績評価
電気使用量 (kWh)	112,151	基準値-1%	×	基準値-1%	×	基準値-1%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	51,814	排出係数0.463		排出係数0.463		排出係数0.463	
原単位 (kWh/m ²)	77.88	65.79		基準年2022年度		65.79	
トラック軽油使用量(ℓ)	1,165	基準値0%	×	基準値-1%	○	基準値-2%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	3,006	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位 (ℓ/m ²)	0.30	0.30		基準年2022年度		0.30	
フォーク軽油使用量(ℓ)	3,947	基準値0%	×	基準値-1%	×	基準値0%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	10,183	排出係数2.58		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位 (ℓ/m ²)	1.01	1.01		基準年2022年度		1.00	
ガソリン使用量 (ℓ)	445	基準値0%	×	基準値0%	×	基準値0%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	1,032	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位 (km/ℓ)	12.42	12.42		基準年2022年度		12.42	
A重油使用量 (ℓ)	41,884	基準値-1%	×	基準値-1%	×	基準値-1%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	113,506	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位 (ℓ/m ²)	28.81	23.47		基準年2022年度		23.47	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物 (kg)	0	-	-	-	-	-	-
産業廃棄物 (kg)	3,203	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位 (kg/m ²)	1.89	1.87		1.85		1.83	
木材 (kg)	95,730	基準値-1%	×	基準値-1%	×	基準値-1%	
原単位 (kg/m ²)	56.54	55.97		55.97		55.97	
排水量の削減							
地下水 (m ³)	407	基準値-1%	×	基準値-1%	×	基準値-1%	
原単位 (m ³ /m ²)	0.28	0.20	基準年2022年度	0.20	基準年2022年度	0.28	
上水 (m ³)	225	基準値-1%	○	基準値-1%	○	基準値-2%	
原単位 (m ³ /人)	0.78	0.77		0.77		0.76	
化学物質の削減							
行動目標	インク使用時、適正使用量の管理実施						

*1 マスキング欄は基準年2024年度に変更

製函課次年度活動目標

項目	変更点
電気	基準年2024年度へ変更
A重油	基準年2024年度へ変更
地下水	基準年2024年度へ変更



8-3. 次年度の活動目標

〔真岡事業所 加工品課〕 評価（原単位評価）： ○達成 ×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 (2023年4月～2024年3月)		2024年度 (2024年4月～2025年3月)		2025年度 (2025年4月～2026年3月)	
二酸化炭素削減項目		目 標	実績評価	目 標	実績評価	目 標	実績評価
電気使用量 (kWh)	83,240	基準値-1%	×	基準値-1%	○	基準値-2%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	38,457	排出係数0.463		排出係数0.463		排出係数0.463	
原単位 (kWh/台)	5.67	5.61		5.61		5.56	
軽油使用量 (ℓ)	3,915	基準値-1%	×	基準値-1%	○	基準値-2%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	10,101	排出係数2.58		排出係数2.58		排出係数2.58	
原単位 (ℓ/台)	0.267	0.264		0.264		0.262	
ガソリン使用量 (ℓ)	2,478	基準値-1%	×	基準値-1%	○	基準値-2%	
二酸化炭素 (kg-CO2)	5,749	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位 (ℓ/台)	0.057	0.056		0.056		0.056	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物 (kg)	0	-	-	-	-	-	-
産業廃棄物 (kg)	1,720	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位 (k g/台)	0.120	0.119		0.120		0.116	
鉄屑 (kg)	1,712	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-2%	
原単位 (kg/台)	0.071	0.070		0.070		0.070	
ステンレス屑 (kg)	5,837	基準値-1%	○	基準値-2%	×	基準値-2%	
原単位 (kg/台)	0.067	0.066		0.066		0.066	
D鉄屑 (kg)	17,090	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-2%	
原単位 (kg/台)	0.169	0.167		0.166		0.166	
化学物質の削減							
化学物質含有量 (ℓ)	0.365	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位 (ℓ/千円×百万)	1.127	1.116		1.104		1.093	

加工品課次年度活動目標

項目	変更点
基準年	該当なし



8-4. 次年度の活動目標

〔真岡事業所 総務課〕 評価（原単位評価）： ○達成 ×未達成

項目	2022年度 基準年	2023年度 (2023年4月～2024年3月)		2024年度 (2024年4月～2025年3月)		2025年度 (2025年4月～2026年3月)	
二酸化炭素削減項目		目 標	実績評価	目 標	実績評価	目 標	実績評価
ガソリン使用量（ℓ）	218	基準値100%	×	基準値100%	×	基準値100%	
二酸化炭素（kg-CO2）	506	排出係数2.32		排出係数2.32		排出係数2.32	
原単位（km/ℓ）	13.40	13.40		13.40		13.40	
産業廃棄物削減項目							
一般廃棄物（kg）	0	-	-	-	-	-	-
産業廃棄物（kg）	600	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
排水量の削減							
節水（㎡）	573	基準値-1%	○	基準値-2%	○	基準値-3%	
原単位（㎡/人）	2.09	2.07		2.05		2.03	

総務課次年度活動目標

項目	変更点
基準年	該当なし



9. 次年度の主要な環境活動計画内容

項 目	本社・門司事業所	真岡事業所	
		製函課	加工品課・総務課
二酸化炭素排出量の削減	電力の削減	電力の削減	電力の削減
	・空調温度の適正化 ・不要設備の電源OFF ・小まめな照明OFF	・天日干しによる乾燥炉使用時間の短縮 ・空調温度の適正化 ・設備、冷暖房不使用時の電源OFF ・エリア別不要照明の電源OFF	・空調温度の最適化 ・不使用機械の電源OFF ・小まめな工場天井灯のOFF ・夜間、休日の主電源OFF
	自動車燃料の削減	自動車燃料の削減	自動車燃料の削減
	・効率的なルートで配送 ・アイドリングストップ ・急加速・急停車の防止 ・タイヤ空気圧定期チェック	・使用フォークの適切な選択 ・アイドリングストップ活動 ・急加速・急停車の防止 ・トラックの適正なエアコン使用	・タイヤ空気圧チェック ・エコドライブの勧め10か条 ・車種別燃費管理 ・短距離では歩行する
廃棄物排出量の削減	廃プラ廃棄物の削減	廃プラ廃棄物の削減	廃プラ廃棄物の削減
	・素材別ボックスの設置 ・個人ゴミの持ち帰り ・素材別排出量の管理	・段ボール、雑誌の有価リサイクルの実施 ・支給品端材等の分別・引取りの徹底 ・定期的な排出、内訳の確認 ・粉屑の雨漏れ防止	・シュレッダーゴミの削減 ・コピー用紙裏紙使用 ・仕入先返却 ・ウエス再利用
	木材屑の削減	木材屑の削減	金属屑の削減
	・端材の有効活用、回転を速くする習慣化 ・作業ミスによる廃棄量の削減 ・設備トラブルによる廃棄量の削減	・端材使用の当木在庫製作 ・130角材の取り合わせ製作 ・ねじれ、反り材の挽割転用	・明細別屑化管理 ・材料毎の分別BOX ・端材の有効利用
排水量の削減	節水	節水	節水
	・節水の徹底 ・使用しない時の蛇口閉の徹底	・地下水：乾燥炉の蒸気使用 ブロー量の管理 ・上水：節水の励行 洗濯機回数チェックによる維持管理	・不要水の削減 ・内部コミュニケーションによる意識向上 ・メーター管理時の変化点確認継続
化学物質の削減	【行動目標】	【行動目標】	【行動目標】
	・鋸用オイルの適正使用の実施	・インクの在庫管理実施（少量の為）	・最新版SDS入手 ・化学物質の把握
その他	・5S活動の推進 ・事務用品エコマーク商品の優先購入	・5S活動の推進 ・森林認証制度認証FSCマーク付与の材料を使用	・5S活動の推進 ・QC活動による歩留UP ・事務用品エコマーク商品の優先購入

10. SDGs行動宣言

2024年11月6日



SDGs行動宣言

中山産業株式会社

わが社は、企業活動を通じて、社会課題の解決に取り組み、SDGs達成に貢献しています。

【当社のSDGs宣言】

「持続可能な開発目標（SDGs）」の趣旨に賛同し、持続可能な社会の実現・SDGs達成に貢献していきます。経営理念「共生の心を育て繁栄する。革新の心を育て進歩する。啓発の心を育て成長する。」を軸にし、技術の進歩を元に会社の繁栄と社会への貢献をベースに社員の幸福の実現に取り組んで参ります。そして、事業活動を通じて地域社会や経済の発展や活性化に貢献して参ります。

項目	関連するSDGsのゴール	SDGs達成に向けた取組
地球温暖化への取組	3 気候変動に具体的な対策を 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も	・随時生産工程の見直しを行うことで、ロスのない生産活動を定着させ、環境に配慮したモノ作りに取り組みます。 ・当社製品の「製造・開発・輸送」活動を通じてCO2排出量の削減を全社一丸となって目指します。
責任ある企業行動	9 産業・科学の革新を通じて持続可能な未来を 12 つくば未来 17 パートナリシップで持続可能な未来を	・安全管理体制を構築し、高い性能・品質の製品を安定的に提供することで、お客様に安心して取引をいただける企業づくりを目指して参ります。
働きがいのある仕事	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 10 人や国を超えて公正で包摂的な成長を	・若年層・中堅層からシニア層まで幅広い人材の雇用を行い、社内研修制度を通じてすべての従業員にレベルアップの機会を提供するとともに、技術の承継を行います。 ・すべての労働者の権利を守り、安全・安心な労働環境を提供します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS





11. 代表者による全体評価と見直しの結果

今年度のエコアクション21活動は5S活動を中心にロスの無い生産活動を定着させ環境に配慮したモノ作りに取り組んで参りました。

2024年度の活動総括として、製函課の目標未達は、電力、A重油、地下水の影響が大きいことから、乾燥炉の乾燥条件と天日干し期間の調査を進めて乾燥条件の適正化を図ってください。

加工品課は金属屑が未達のため歩留のバラツキを解析すると共にタレパン導入に伴う指標の見直しも必要に応じて検討し改善に繋げてください。

当社は2024年11月にSDG s 行動宣言を発行しました。

経営理念を軸に「持続可能な開発目標（SDG s）」の趣旨に賛同し持続可能な社会の実現・SDG s 達成に貢献していきます。

次年度も引き続き全員参加でエコアクション21を推進していきましょう。

